

1 2 3 コマ目

昭和13年分の記述 = 1 2 3 コマ - 1 7 4 コマ目

昭和13年1月1日(土) 晴れ 文芸部 福本途夫

元旦や 容姿(スガタ)改まりたり 屋根の雪。

雑煮を祝い、式に出る。形の如し。辻さん年始廻り。花島さん学校の用務。角替君、友達。山根君スキー。福本スケート。依って、舎内無人。お正月はお正月らしいからお正月なのである。今まで19回のお正月中楽しくなかったお正月はたった3遍(生まれた次の年とその次の年とその次の年と)。その他は何編繰り返しても目新しい。

1月2日(日) 晴、温か。夜は寒。非常時や北海道は静かなり。

1月3日(月) 晴一時雪。花島氏、朝日寮へ研究のため出発。

朝は、福本、畜産馬場を訪ねて初乗を試む。夕食後、辻さん、山根君、前川教授を訪問。西村菓子店、小カレンダーを10個持ってくる。昨日、大を1つ持って来ている。強引に頼めば得をする事もあるなり。

1月4日(火) 曇後晴。いいお正月が相変わらず続く。呑気なり。

1月5日(水) 晴時々曇。

函館の地米もて搗くと をばのいふ 草の香愛でつゝ青き餅たが

1 2 4 コマ目

夕食全舎4人。辻さん、角替君、山根君、福本にて、森永で取る。その後カツドーを総見。帰舎後、腹足りず餅を食う。カードをもて遊びて一時を過ぐ。お正月らしい方なり。

1月6日(木) 曇。 山根君、朝一人でスキーに出掛く。福本、遠来の友を案内す。夕食後4人でカードをやる。

1月7日(金) せりなずな ごぎょうはこべら ほとけのざ
すずなすずしろ これぞなゝくさ

ほうれんそうとみつばのお粥を食べる。夜9時過、玉山君帰舎。いよ／＼お正月も...

1月8日(土) 在舎予科生、登校。晚7時40分(40分延着)にて田村さん坪川さん帰舎。その後角さん帰舎。

1月9日(日) 田村・坪川さん及び福本、円山へスキー。山根君、友人と同じくスキー、猛顔面敢行の由。目に隈どつての実見談うけたまわる。平山さん、河口君、晩の急行にて帰舎。田原さん帰舎。上弦の半月、いとも夢幻的なり。

1月10日(月) 予科・実科、授業開始。植岡さん、阿部君、不幸にて京都にわかれる由、葉書あり。室割変更 - 11号河口、山根君、9号阿部君、福本。

1月11日(火) 夜、吹雪く。

1 2 5 コマ目

1月12日(水) 阿部君昼の急行にて帰舎さる。全舎生揃う。朝刊に在営年限の延長の閣議決定報ぜらる。幹部候補生も2年。舎生一同関心を持つ。

部屋割くじ引きの結果、始めの通りとなる。

1月13日(木) 予科生、オールドボーイ及フレッシュマンを問わず殆どすべりに又はころびに。夜、昨夕の部屋割の如く引越行わる。

1月16日(日) 或る日曜の玄関の黒板。曰く

ゲンチャンスロープへ行きます。

ピンポンヤロウ

K君下駄かりた

1月20日(木)宮部先生の御宅への招待は22日の筈だったが、高杉先生の奥様が歿られて、そのお通夜の為に1週間延期された。「櫓の音」の用紙を配布した。

1月22日(土)久方振りの降雪。スキーに出かけるもの多し。夕刻、阿部君発熱、風邪の模様。

ホール書棚、若干の整理を試む。明治大正の文学書最も多く、翻訳外国文学、先ず、これに次ぐ。伝記物意外に多く、先輩と現在の我々との読書傾向の差を語るものゝ如く面白し。哲学・宗教乃至一般修養に関するもの大凡3位なるべし。自然科学に関するものが全然少なきは又面白き現象にぞ。大部分が退舎の祭の寄贈によるものか、所謂立派な書物は

126コマ目

余りなし。洋書は猶だ着手せざれど、その装丁の堅固にして落着いて品あるは敬すべし。邦書にして数年以上を経たるのは殆ど小破乃至は読むに堪えざる損傷を受けたるに対し、数十年を経たる洋書も、大部分は背のゆるみたるものもなし。況や表紙のとれ、形のくずれたるをや。一読にして背のがた／＼になる邦書の装丁、技術者の一考二考を要する問題なり。

1月24日(月)決算(59銭)

1月25日(火)阿部君、床を上げる。

数十年来多くのスキーヤーを養成し来たった舎前の好スロープは口惜しい事には暮より逋信局の地下室掘りの土を運んで埋め立てられつつあったが、この2、3日急に馬櫓・トラックの出入り繁く遂に殆ど埋め尽くされんばかりとなった。舎生大して憤慨するも及ばず、無力をかこった。札幌市内有数の寄宿舍スロープも遂に昭和12年の暮れを一期に世界から消滅したのであるよ。

1月29日(土)恒例の新年の宮部先生のお宅へのお招かれが色々の都合で延びて今日になった。田原君が都合悪しく不参加になっただけで、全舎生6時半にお伺いした。先輩の青木さんと亀井さんが見えになった。遊んだり御馳走になったりして愉快地11時頃引上げた。

いつもながら先生のお若いのは嬉しい。遊ぶ時には先生が一番楽しそうにやってらっしゃる。

127コマ目 2007.6.25

2月6日(日) 恒例の手稻登山。辻、平山、玉山、田原4君の外全舎生、5時半に起きて出発す。全員頂上を窮む。絶好の快晴で、山頂より蝦夷富士、無意根、煙を吐く樽前山等、百山千峰を望むことが出来た。石狩の平野の野幌の原始林、遠く日本海を見渡せば、彼方沿海州は見えなかった。ゆっくり下山、4時50分頃札幌駅に帰着、全員無事。非常に愉快的な日だった。

2月9日(水)「櫓の音」55号発行す。

2月12日(土)5時半より卒業生送別晩餐会を開催。宮部先生、鈴木先生、平戸先生御来会さる。卒業舎生、植岡副舎長、辻さん、花島さん。花島さん差支えで出席されず。例を破った和食、御赤飯の晩餐に始る。後送別会。新副舎長の選挙に平山さん、大多数の票に挙げられて就任に決定。型の如く進行して茶菓の饗応に移る。先生方御帰宅の後、来学期委員選考。結果、

会計 玉山君7 次点 角君3
食事部 角君9 阿部君 8 次点 田原君6
文芸部 田原君6 次点 山根君4
運動部 山根君9 次点 角替君3
衛生部 角替君12

2月21日(月)予科試験日発表あり。来月3日休業 4日より 9日まで。

128コマ目 2007.6.24 以下三コマ

2月27日(月) 学部予科実科試験迫り、舎生揃って猛勉強。来学期部屋割り次の如し。
1号室 - アキ。2号室 - 福本。3号 - 玉山君。4号 - 山根君。5号 - 角替君。6号 - 河口君。
7号 - 渡辺氏(新入舎希望者)。8号 - 田原君。9号 - 阿部君。10号 - 柳川君。11号 - 角君。12号 - 田村君。

3月7日(月) 寄宿舍の先輩、川島氏、今次事変発生以来、砲兵少尉として出征、北支に奮戦されていたが、近日、京漢線懷慶にて戦死された事が新聞に伝導された。謹んで哀悼の意を表す。

3月9日(水) 遂に予科の試験了る。柳川君、朝の急行にて帰省さる。植岡さん田村君手稲行。阿部君外泊。

3月10日(木) 平山君、河口君、朝の急行にて帰省。阿部君夕方の急行にて帰省さる。玉山君ヘルベチア〔ヒュッテ〕行。2日間泊る由。学部実科後2、3課目残る。田原君、福本 draw する。

3月11日(金) 角さん早朝帰省。福本砥石山に行く。足を痛めてちんばを引くなり。

3月12日(土) 植岡さん、田村さん、三角山へ行く。辻さん、花島さんが試験了る。田村さん、角替君、夕方の鈍行にて帰省。玉山さん帰る。

129コマ目

3月13日(日) 山根君発熱す。福本、無意根に登る。玉山さん今夜帰省するや否や考慮中なりといえり。現在の所不明なり。

3月14日(月) 午前、玉山君帰省さる。スキーと重いトランクを持って。山根君熱下がらず夜中熱8度7分なり。福本君よく御世話す。理学部地質学科2年目、渡部操君、本日午後入舎さる。午後4時55分発の汽車で福本君帰省さる。

3月15日(火) 朝、山根君、熱少しく下がるも夕食後又上がる。植岡論文試験通過。夜中、桑園派出婦来たる。医者を呼ぶ。石橋先生の子息見舞いに来らる。

3月16日 山根君熱稍下る。石橋先生見舞いに来らる。

3月17日(木) 植岡、謝恩会にてグランドホテルに行く。朝、病院に桜林氏を訪れ相談す。

3月18日(金) 山根君経過宜し、入院見合わす。

3月19日(土) 辻君、午後4時55分の汽車で帰省さる。行先は

朝鮮京城府漢江通11軍宿舎6号の3 土屋栄様内 辻秀人
渡部君午後9時...分ので帰らる。舎にて夕食はせず。

3月20日(日) 山根君、平熱となる。

[編者注 この年 3.30, 文部省, 「大学学部教練ニ関スル要項」を次官通牒で(4月1日以降大学でも軍事教練が必修となる)。政府、4.1, 国家總動員法公布〔法 55〕(5.5 施行)。]

4月6日(水)午後8時平山帰舎。舎には誰も居らず、やがて帰舎される方々の荷物が2、3個。主なし顔に置かれたるも淋し。

130 コマ目

4月7日(木)朝から畳替を行う。昼、田村、角君帰舎さる。角君の真面目さには今更ながら感心する。夜、玉山、柳川両君帰舎さる。両君とも新角。漫画にも書けぬような新角姿。でも御本人は得意の絶頂。新角連に幸あれ、アーメン。

4月8日(金)朝少々雨を見る。今日は新角連の初登校。新角も一段と光を放つ。夜、河口、山根の両君帰舎さる。山根君の東京見物、さぞ面白かった事だろう。河口君、やゝ顔色悪し。上陸早々、ホームシックか。

4月9日(土)予科・各類共に授業を始む。8日に入舎された国松尚君、本日より寄宿舎の飯を食う。寮生活をした人、舎の朝食にもさして驚くまい。

先輩、若松氏、舎を訪問さる。夜、阿部君帰舎。同時に谷口貞純君来舎。当分舎の客人となる。国松君の歓迎コンパを行う。

4月10日(日)先輩、植岡静雄君来訪。新サラリーマン背広姿もりりしく、砂川炭山の話の聞かさる。阿部君昼頃より発熱、38度。

小生、宮部舎長を訪問、ご機嫌をお伺いす。先生きわめて御元気。会談1時間にして辞す。

4月11日(月)阿部君の熱下がらず。成瀬医師を招く。舎に変わり無し。

4月12日(火)角替君、午後8時帰舎さる。

4月13日(水)正午、福本君帰舎さる。舎生の殿を承り堂々、予科2年のかんろくを示す。上海及び南京方面に旅行されたとか。戦跡を見学するのも一つの学問でしょう。見学旅行と言うべきなり。

夜、柳川、山根の両君、東宝へ。新角の活躍目覚まし。

131 コマ目

4月14日(木)快晴。久し振りの暖かさで札幌の町は人の波。春、春！
笹部先生来訪。新入生の下宿を依頼されしとのこと。或いは舎に入るかも知れん。昨日は旭川より入舎の件につき問い合わせあり。青年寄宿舎益々有望。夜、谷口さん下宿に移る。他は無事。

4月15日(金)小雨模様。浅見教授よりの紹介有り。新入生の入舎希望、多数有り。

4月16日(土)昨夜来風雨強し。気温下がる。舎に変事なし。

4月17日(日)曇、朝、国松尚君退舎さる。舎は少々うるさいとのこと。朝よりストーブ取り外しを行う。これで冬ともお別れ。と同時に入舎生多し。農類、井上真由美君、予科清水教授に紹介され、父君同伴にて来舎。続いて医類、後藤寿君、母君同伴にて来舎。福本君の友人、農類、遠藤元清君入舎。午後7時の急行にて、阿部君の友人、工類、渡邊健君入舎。冬去って春来る。新入生諸君の心も亦春ならん。

4月18日(月)本日、予科山鳥教授の紹介により三木広信君、および塚越喜一郎君、入舎。又工学部長浅見教授の紹介により平井宏知君、入舎。これで新入予科生7人、舎生19人。まさに満員木戸止めの盛況。寄宿舎の黄金時代来る。夜歓迎コンパを行う。和気

部屋に満つ。先輩花島君来訪、理学部助手の拝命ありとの由。未たのもしきものなり。種々閑談。

132 コマ目

4月19日(火) 新入生元気。夕方、各先輩にお供して各方面へ出動。本日下駄箱の整理を行う。運動部山根君、臨時助手河口、大いに働く。これも皆、舎のため。

4月20日(水) 快晴なれど風強し。朝、先輩、平戸助教授、来舎。帰札の途、車中にて、新舎生、平井君を紹介する。夜3号室に於てコンパを行う。三木君を紹介す。新入舎生に寮歌を教え、大いに興を共にす。

4月21日(木) 晴、やゝ寒し。新舎生なかなか運動家多し。ピンポン、ボール投げ、種々、古舎生を圧倒す。三木、井上両君、札幌シンホニーに入会、他に書くべき事もなし。

4月22日(金) 放課後、舎の裏庭にてスポーツを行う。野球、縄跳び、砲丸投げ、槍投げ、運動なかなか盛んなり。

夕食後、新舎生と共に宮部先生のお宅を訪問す。先生大いにお元気。80に届く老人とも思えぬ若さ。そして何時に変わらぬなごやかなお顔。そのご人格には常に頭が下がる。色々御馳走になり新入舎生を紹介して退下。

4月23日(土) 夕方決算あり。物価高き為意外に高く1日70銭。舎からの補助で69銭。例のごとく菓子を喰って駄弁って決算を終わる。

4月24日(日) 今は舎生殆ど 真駒内及び円山へ散歩、ハイキング等うらかなる春の一日をのび／＼と愉快地暮した。

夕方、月次会委員、大童になって苦心した甲斐ありてプランが出来上がった。文芸部の制度変更あり。新聞雑誌の費用を受持つ。

4月25日(月) 今日、靖国神社の大祭を明日にして皆伸び／＼と遊んだ様だ。夕方ピンポンをやったが、新人平井君断然、我々総崩れ。柳川君幸いにて1勝す。

133 コマ目

4月26日。靖国神社の祭りで学校は休みで、舎生も殆ど宿舎に居ない。札幌招魂社に参拝した人も居る。／ 付箋／旗を立てる。札幌名物の馬糞風が猛烈に吹きまくり。

4月28日。今日は新入生歓迎会を兼ねての月次会が有り、宮部先生始め鈴木、前川、平戸、亀井、花島諸先輩が来られ、7名の新入生の挨拶に続き先輩の話があり、最後に宮部先生の話があった。その内容は、

諸君達が人生の出発点としてこの寄宿舍を選んだ事は一生のターニングポイントであり、極めて重要な意義がある。又、舎に有って互いに円満に融和し、お互いの短所を許し又互いの長所を見つけ出して親密に接触して舎の生活を暮らしていく様にとのお話であった。

委員(田村、角、福本、角替)の心からなる料理に先輩たちも満足し、我々も舌づつみを打って、打ち興じた。田村君が風邪で出られなかったのは残念だった。

4月29日 天長節にて国旗を出す。他変わったこと無し。

4月30日。曇り、然し温い天気なり。井上君のピアノを聞きに行く。

5月1日。発寒川に井上君、角替君と僕とハイキングに行く。他、大体、大学に野球に行く。夜、渡辺君の歓迎会があり、渡辺君は柔道2段の腕前。寄宿舍にも一威力が加わる。

134 コマ目

5月5日 今日節句に当たり、7時より食堂にて菓子を喰う。若松さんも来られ、愉快

にコンパを終る。

5月6日 夕方、明日の薄別旅行に備えて運動部、食事部の部員、大童になり、リュックに荷をつめる。

5月7日 一同元気よく出発す。先発隊は平山、柳川、玉山、角、田原、山根、河口に新入舎生、学部2年目の渡辺、予科1年の塚越、井上、三木、平井、後藤、遠藤の6名、後発部隊は田村、渡辺、角替の3君であった。

電車の中では遙かに無意根を望み、白雲に未だ包まれた姿や、目に映ずる風景を楽しみながら過ぎ、宿については例年の通り、愉快地にジェスチュア、かくし芸に腕をふるったが渡辺氏(学部)のお鶴の巡礼は当夜の白眉だった。夜遅きに井上氏腹痛を起したがすぐ回復した。

5月8日、午前、各自は自由行動。1時に宿を出発して帰る。

5月9日、別に無し。

5月10日、晴れ勝の天気。

5月11日 曇り後晴。8時40分迄円山公園坂下グラウンドに集。桜星会、新入生歓迎会、選手推戴式並に新任川島教授の挨拶(歓迎)有り。運動会に参加せし者もあり。

135コマ目

5月13日 曇り寒し。別に無し。

5月15日 予科対本科戦があり、本科軍がならず、14対13で本科惜敗。予科久方ぶりに覇権をにぎった。予科三木君、劇的ホームランを放つ。

5月16日 文武会で公会堂で活動を見た。

5月17日 田村君突然肋膜炎にて大学病院中川内科8号室に入院さる。

5月18日 今日より3年、島松に演習に行く。

5月21日 3年、帰舎す。

5月22日 植岡さん舎を訪問さる。夕方、田村君を病院に見舞う

5月23日 今日、決算にて特別室で行う。決算後菓子を食う。10時散会。

5月25日 除州陥落のチョウチン行列が有って農類の学生は皆出掛けた。

5月26日 非常なる好天気。然し夕方より雨。

5月27日 海軍記念日。晴天。昨日、今日と引き続いた天気、舎の連中も昼は殆ど居らない。

5月28日 2年の諸君、島松演習場より帰る。野営をしたので疲れていると思いきや、余裕しゃく／＼で遊びに行くもの有り。その元気実に称すべし。

5月29日、曇天、雨模様。蒸暑い。天気で、夕方雨が降った。阿部君等、田村君の見舞いに行く。切に回復の早からん事を祈る。昼は各自色々の行動を取り、後ピンポン等やった者もある。

136コマ

5月30日

／ 付箋／7里の強行軍を敢然としてやりとげた2年諸君は今日は休み。思えば我が舎も多事多難であった。前の池が何処よりともなく運搬された土くれで俄作りのグラウンドの様になったと思ったとたん、曰くローン進行係、曰く現場監督等のものものしい肩書付きの猛者連が前の殺風景な赤土を青々としたローンに変化させ様と涙ぐましいふんとうをし

たり、又、舎の横の杭が出過ぎで居るとの事で、約1米と前線より後退を命ぜられて、文字通り、出る杭は打たれるで、すべては国策の線に沿わねばならぬ想である。

5月31日、晴。農実、角替君、島松に行く。三木君ホッケー部の合宿に行く。

6月1日、晴、後曇雨

6月3日、晴天。陸軍大臣代わる。板垣陸相就任、次の大陸政策如何？

6月4日、晴なれど強風吹き荒れ、舎の電車通りに面せる大木遂に倒る。午後少し強風止み、皆、活動へ、ハイキングへ三々五々出て行く。

6月5日、新聞屋2円10銭。1円50銭だけ出し、賄が立代う。

対高商戦、我軍の応援物凄く、堅子高商何するものぞと張切ったが最終回の1点も空しく、惜しくも5対4で敗退したが、夜、狸小路のストームに大挙して出掛けた舎の連中、快心のストームに憂を晴らし意気揚々にて引上ぐ。

6月6日、予科生は真駒内へハイキングに出掛けた。(今年より学校の行事)

6月7日、曇、寒。1年生が月寒へ兵営合宿に行き、舎は急に寂しくなった様だ。支那、代理公使の引上げで、敗れたる者の胸中哀れの一語に尽きる。

137コマ

6月9日 快晴。空に一点の雲無く、地にさわやかな涼風が吹き始め、久し振りに初夏の1日を楽しむ。

6月10日 1年生月寒より帰り、急ににぎやかになる。

6月14日 今日より本道総鎮守札幌神社の大祭。舎の横にも提灯がぶらさがって居る。然し予科生ともなれば、お祭等には至極無関心、まして有田洋行にのる物好きも居るまい。

は非常時である に神人霊通の境に入るべし。〔有田洋行=昭和30年代まで続くサーカス・見せ物興行の一つ。有田洋行社とも名乗った。〕

/付箋/シンフォニーの音楽会が富貴堂に有り、井上君の至芸を見んものと舎/付箋/行く。

6月18日 月次会。宮部先生始め北村、若松両先輩が見えられ、開会劈頭より愉快的率直な心持を語り、三木君の飛び入り演説等有り。今までの形を破った、なごやかな会で、宮部先生も非常にこの様な気持ちを歓迎すると言われて始終にこゝされて居た。

食後(月次会後)残りの菓子を食べながら河口君、先ず口を開いて、今後、月次会後何か問題については討論の様な事をなしたらどうかとの提案をして一同に考慮を求めた。これが発端となって、それについての自己の意見を極めてリアルな気持で発表した。この様な事は、この寄宿舍の一般的な動向、思想的発現の一端を発表する機会として我々入舎以来の2大事件(良い意味での舎内に於ける)と云って良からうと思う。そしてこの問題が今後如何なる方面に伸展するか又、何らの具体的影響をもたらさずに闇中に投げ込まれるかは舎生一同の真面目な自覚・関心の程度に依るもので我が青年寄宿舍の文化的水準を示すバロメーターとしても見られよう。

次に委員の選挙が有り

会計 柳川君、食事 河口君・塚越君、文芸・福本君、運動・三木君、

衛生・平井君、夫々就任。明朗にして奇知に富む就任演説有りて解散。

尚今回の月次会は渡辺操君(理学部2年目)の歓迎を兼ね、行われた。福本君都合により出席できず。

138 コマ目

6月23日、蓄音機屋（今泉）がシャリアピンのレコードを持って来たので、聞く。

6月24日。試験も後あます所1週間。皆ラストスパートに油が乗って来たか、真夜中の12時頃になると舎はがら空きになるという奇妙な現象を呈す。

6月28日。東洋大学学長、大倉氏来学、「日本精神の体験」と云う演題にて一場の講演をされた。氏の豊富なる体験は実業界にて得られたもので、平易な面も真実味あふれるものであった。

予科生の試験も近づいた。既に舎はあった人もある。健闘を望む。

7月6日。学部・柳川、玉山両君、野外演習に島松に出かける。神戸地方大水害。死者206名。

7月7日、曇。招魂社祭典。プロパー、農実生、参拝に行った。

今日も出征軍人があった。駅頭は見送人で賑わしかつた。一紳士が脱帽して敬意を表したのを見た。予科生は試験、中日休みで一息ついたことであろう。

7月8日 予科の試験もあと1日となった。皆よく頑張っている。柳川君、玉山君、島松の野外教練より帰舎された。

7月9日 離別コムパを明葉にてやった。予科の試験も終わって皆ほがらかだ。天気は快晴、セミの声も聞えた。

7月10日 柳川君、山根君、帰省さる。今日より予科はアルバイト・ディーンストを始む。〔 Arbeitdienst = 勤労奉仕のことであるが、今回の措置は、文部省「集团的勤労作業運動実施二関スル件」による最初の「学生集団勤労作業」のこと。北大の予科ではホッケーグラウンドの土盛り作業だったはずである。『北大の125年』2001年56頁〕
〔 日誌記入者は、作業内容は戦争に関係なくとも、行事が軍国主義に拘わる事柄ゆえ、ドイツ語で表記したのではないかと察せられる。〕

7月12日 愈々アルバイトも終って皆、勇躍して帰省す。平井君1時の汽車で、河口、阿部、塚越、遠藤、三木の諸君4時にて出発。これで残留組、僅かに5名。

139 コマ目

2学期

久方振りて懐かしの札幌へ着いたのは夕方6時。一直線に舎に帰り、ガラリと戸を開けるともう舎の空気の中に融け込む。食堂にはもう平山、平井、山根の諸氏が先に帰舎して居た事。後藤、遠藤の諸氏も既に舎に在られる。未だ文芸部・福本君が帰って居ないので今日の分だけ書く。

9月12日。角君、角替君、田村君、河口君、三木君。

9月13日、阿部君。

9月16日、晴。秋色漸く濃くなり、冷さ、日に益す。

9月18日、日、快晴。文芸部委員・福本記。我が舎の若き先輩、若松不二夫氏は、晴れの召集を受けて、軍医見習士官として出征される事になった。昨日宮部先生以下の先輩諸氏と共に送別コムパを開いて壮途を祈り、別れを惜んだ。

舎生一同は若松さんの御宅から駅までを行進して壮にしホームで「都ぞ弥生」を高揚して御送りした。若松先輩は昨日も今日もあの明るい元気な御顔で別れを告げられた。

若松さんの様なよい立派な、そして近しい先輩を戦地に御送りする事は、心の奥に淋しい

ものがわずかにあるが、実に我が寄宿舍の且また我が舎生の誇りとする所だ。学に務める我々がその代表をお願いして戦地に駒を進めて戴くの思いあり。

我等の若松不二夫君、御立派に！

140 コマ目

本日は対高商定期戦。遂に勝利を得。実に我々が入学以来、雌伏3度4度にして本望を達す。

9月19日(月)晴後曇。予科生は高商戦の後を受けて、本日、札幌神社に参集して、皇軍の武運長久を祈り、後、1年は盤溪、2年は小別沢、3年は藻岩に遠足。ストームに痛む節々を揚げて、本格的のエンソクに各人或いは楽しみ、或いは悩む。

9月20日、終日雨降る。聊か寒し。北国の秋いよ／＼涼し。河口生。

9月21日、曇時々雨。

日支事変始まってより既に14ヶ月。支那という立派な国家を相手にして居るだけに、日本もかなり経済的困難を必死になって克服しようとして居る。各種の統制を夙に行って居るが、之も或は却って経済的苦痛を増加するに役立って居るものであるかも知れない。対ソ戦争を考えては、日本の経済は破綻の一路をたどる他に通がない事が、日支事変14ヶ月の経験で明らかになった。漢はとるも、更に支那軍が奥地へ逃げこんだら、漢口では所謂予定の退却をして、日本軍の相当の損害を与えて中央軍、共産軍をまとめて更に奥地を守れば、日本には重慶まで進軍する経済的実力が有るのであろうか。我々は日本の国力・日本の経済力、そして日本の進路を新しい観方から再認識すべきではないか。事変開始以来、政府の言論統制(制限)は嚴重を極め、その為にかえって予期せざる効果の発生した事を疑えない。非常時局の再認識こそ現在の急務でなければならない。

本日文武会デーの野球大会に青年寄宿舍も参加を申込み、林実2年と当る。

夜、決算が新委員の手により行われた。食費1日分62銭。思った程も高くならず、ほっと一安心と云うところ。玉山。

141 コマ目

9月22日 今日から4日、休みが続く。即ち今日は文武会第1日である。

朝から晴れたり豪雨が来たりする。舎生出場の野球戦中止さる。午前中福本、田村君等と植物園に行く。豪雨に遭い、濡れた。舎内にてピンポンをやるもの多し。遠藤君、如何なる由にてはありけむ、退舎を申出て、下宿に移る。夕刻より豪雨にもかゝらず外出して活動館(クラガリ)へ行く者多く、在舎生僅かに4人なりき。午後9時記之(井上)。

9月23日 久し振りで晴。あこがれていた晴。昨日雨のため中止の野球大会、今日行わる。午前11時、寄宿舍、林実2年と干戈を交う。エキストラ2名の参加と舎生選手諸君の奮闘にも拘らず遂に惨敗を喫した。15対1でコールドゲーム。

明日は恒例の支笏湖旅行。食事部の河口、塚越両君並に運動部代理渡辺健君、大いに活躍の態。明日、明後日の晴天なる事を祈る。

9月24日。今日は待望の秋の寄宿舍旅行。参加人員、副舎長以下12名。天候不良、早朝より相当の降雨。為に出発を躊躇せしも、他日に好機会望み難ければ、断然決行。

出発6時50分。馬術遠征中の福本、山根の両君、弘前に於て健闘せしならん。残留の2人、夜の「すきやき」に支湖旅行をしのぶ。(田村)

9月25日、日曜日、晴。昨日に引きかえて今朝は快晴。さぞ支笏湖はも美しかったこ

とであろう。三木君は早朝からホッケーの練習に行った。昼食は田村さんと2人だけだった。予は

142 コマ目

初めて蓄音機を聴いて御飯を食べた。いい音楽なのだろう、美しいのに遊ぶ様？

福本君、山根君、弘前高校との馬術大会に出場。優勝して帰った。支笏湖行きの連中、5時も過ぎ6時にもう近いと云う御帰宅。面白かった様だ。帰って今度は出征兵を見送りに行った人もある。駅前広場から五番館前にかけて人で一杯だった。万歳、万歳の声の中を隊伍、堂々と出征して行く皇軍！見るからに勇ましい限りだ。

9月26日(月)雨、8時頃に目を覚ますと沛然たる大豪雨の音。登校時から小止みになり、午後また少し降る。足袋が欲しいくらいの寒さ。午後久し振りで、実習に行って居られた渡辺操君が帰舎された。夜、大分雨が降っていたが、舎生の半数は何処となく姿を消してしまった。角替君の臨時試験も終わった様だ。気候不順のためか、舎生中風邪の者2、3あり。三木君は発熱、7度8分にて臥床す{山根}

9月27日(火)曇后晴。どうも此の頃は天気ははっきりしないようだ。降ったり止んだり、晴れたり曇ったりして。久し振りで舎の空気にふれることが出来、嬉しい。昨日休んでいた三木君も今日は床を離れたらしい。{渡辺操}

9月28日(水)晴。又突然後藤君が退舎なされた。前に遠藤君を又再び後藤君を失ってしまった事は我々にとって非常に残念な事である。共に生活して居た人が一人欠けると云う事は非常なる悲しみを支えるものである。況や二人時を同じくして如何なる考えに依てかは知らないけれども出て行ってしまったという事は友を失ったと言う事のみでなく何か言い表し得ない悲しみが存在する。もう9月も末になってしまった。天候もよう／＼おさまったらしい。

143 コマ目

久し振りで夕暮、農場に出てみたら上弦の月が手稲山頂にかかって居た。{塚越}

9月29日(木)昼頃一寸曇った様であったが間もなく又晴れた。これで天気も愈々落着くか。舎の前の道路改修工事で朝っぱらからうるさい事うるさい事。早くやめちまえっ！月次会日程発表。いみじきは傘一つの注意。之で多分2度目。強心居士よ。食事をあおり悩ます勿れ。A B E

9月30日(金)午後より雨。

僕らの日記がやっと来た。さて何を書こうかと筆を取る。規則的な舎の生活。しかし内容は日々刻々、次の何かしら考えている。特に感じた事を書こうと思う。けれどそれを発表する術を知らない。あたかも汽車に乗って広原に行く時、目にうつる景色を心にきざみつけてゆく様なものだ。馬が居る、子供が手を振っている、どれものどかな田舎の風景である。そこに情趣を感じず。しかし再び之を表そうと努力する考えもない。でも何か書いてみたく思う。そこで筆をとる。

今朝学校へ行く途中で健さんと色々面白い事を話した。一步進む度に僕ら3人は同感の度を深めて行った。それは大体僕らが北大予科に来てからの生活についてであった。国家有為の人物とは如何なる心を持って国威を輝かすのであろうか。玉子からおたまじゃくもにそして一人前いや一医前の蛙になるその行程は変らぬ。しかし人間は大いに変わる、卵から猿になったり、いたちになったり又ライオンになったりする。例えば古今の偉人を見れ

ばそれが解る。単にその日その日無自覚に過すことはいかぬ。しかし僕等はそうなりやすい。善があれば必ず悪がある如く。

144 コマ目

物事を正しく見ようとする事は必要である。併しその物事と超越して考える事も必要であろう。積極的な行動こそ予科生の真面目だと思ふ。平井。

10月1日〔土〕晴。此の頃には珍しく天気がよい。変りやすいのは秋の空とかいうが一日中無風な静かな小春日和であった。残陽手稲に没せんとしてるとき紫にかゞやいた雲が手稲連峰の上にかゝり、ポプラ並木を稲積む荷馬車がコトコトと家路を急いでいた。小春日和にスポーツ日和、舎でも田原君、山根君の 6人許りで明日の東西対抗戦にそなえて野球の練習をせんと。平井君のいう意味ではないかも知れないが、何事も積極的にやるのはよい。その意味で、野球の練習等も大いに可なり。

午後7時より月次会を行う。例年の如く先輩の来訪少なく、北村、花島の2先輩のみ。田原君の型の如き挨拶、平山副舎長の夏休中の舎務報告、並びに休み中の実習なり得たる感想談ありて、舎生の演説に入る。塚越君、夏休中の富士登山の話、柳川の南洋の話、渡辺君の富士登山及び保田へ避暑にいった話、三木君及び井上君の夏休中の旅行談あり。何れも旅行談・風景を話すに止まりて夏休中に得たる精神的、文化的収穫について話さるものなきは残念なり。我々若人にとりて2ヶ月の時間的差は必ずや各自の精神的のものに又知識的に差をつけて居たであろうに。

北村氏の戦時下の農村肥料問題、ハッカ、亜麻等の戦時輸入統制されておる作物について興味深きお話あり。

舎長、宮部先生、先日物故された新渡戸万里夫人についての

145 コマ目

思い出を語られた。結婚に至るまでのロマンス。札幌に残された遠友夜学校、楡のアベニュー、等話題はつきず、先生の口からつぎつぎにと話され、舎生一同をして亡き夫人及び我々の学校の生 大先輩の片鱗にふれせしめた。終に河口君、例の如く明快なる口調で閉会の辞を述べて、終わった。

茶菓に移て種々の舎務に関する舎生決議あり。

一、文芸部購読雑誌は「科学知識」「ゼルパン」とす。

一、1号室を改造して押し入れを暗室に、他を応接室にする事。

一、2学期の部屋割、左の如し

2号室柳川、3号室玉山君、4号室河口・三木君、5号室福本・渡辺君、6号室角君、7号室田原君、8号室角替・塚越君、9号室阿部・坪井君、10号室山根・井上君、11号室田村君、12号室渡辺操君、以上。

猶、副舎長より本年記念祭事業としてテニスコートを造る件を舎長の許可を得て先輩より寄附を仰ぐ事に定った旨の報告ありたり。 柳川。

10月2日、曇後雨。

午前9時より東西対抗試合を行い、両軍乱打して14対14の引き分けに終る。

は舎内はガランとして寂しい。舎生の動向は、夜にな 活動に向くらしい。

／日誌回送トナル、の付箋が後年貼られる／ 誌もたま／書くと、おぼろげながらも興味が付いて何とかペンも動くが文芸部一人では相当の忍耐を要し、然もブランクが多い

(公平に見て) 今度の制度は一石にて三鳥を射落す名案也。

146 コマ目

10月3日 今晚の数室の引越、前日の引越とで殆ど部屋割り実施は完成された。文芸部でアサヒグラフを廃止して科学知識を購読する事になり、本日10月号を購入。日記の順送り制度は評判好く、舎生一同熱心であるので非常な好成績を示している。舎の事業に対する熱意は生活に対する熱情の一端の現れか?(福本)

10月4日 2学期が始まったかと思えば、もう10月の声を聞くようになった。時は無意識のうちに過ぎていく様な気がする。冬が来るのももうすぐだ。我々は今の内に野外運動に、ハイキングに、秋の精気を充分吸わねばならない焦燥感にかられる。近頃予科教授の休講が非常に多い。今日等、1年工類は3組とも午前中で終わっていた状態である。今夜友人の所で青年寄宿舍の話が出て、今尚特別の秀才、特別の勉強家の集まりの様な観念を戴いている人が非常に多いらしい。これについては各人各様の意見があることと思うが我々は先輩の残したよき名に及ばぬ迄も各自の最善をつくさねばならないと考える。(渡辺)

10月5日 晴後曇。日の出が遅くなったので8時近くに起きる東側の者には澄み切った日光が射し込むまで一寸照れくさい。雨後のためか実にすがすがしい朝だった。昼頃から例によって曇りだした。教授の休校が多いので3時間、4時間位で帰ってくる舎生が多い。夕食後散歩に出る。相変らず外から見ると各室に電気がともって居るが在室者は少ない。(河口記)

10月6日 朝激しく雨が降ったが午前9時過ぎに止む。ドイツのズデーテン進撃に次いでポーランド、ハンガリア迄チェッコに要求。英国の弱腰も愉快だが、後に来るものを考えねばなるまい。(玉山)

147 コマ目

10月7日。近頃雨多し。

今日、御親閲記念式が行われた。一学年生徒参加する。総合グラウンドに着いた頃より天気漸次回復し、心地よし。分列行進は成績よしと云わる。

夕刻より冷気加わる。天気よくなる兆候見ゆ。良い月だ。札幌に来て約1ヶ月経ったけれど今宵の様な美しい天空を見るのは初めてである様な気がした。いよ／＼爽快の秋が訪れたのである。明日、明後日にかけて4、5人の人達と手稲登山をする事を約して寝につく。

(Shizukanaru akino yoni 10 goshitu nite

Koreo shurusu, M. Inoue.)

10月8日 ポカッと目をさます。枕元の腕時計を見ると8時に15分前。休みにしちや割に早起きだ。舎内が何となくざわついて居る。ようよう山根君等と本日手稲行の約束をした事を思い出す。あわてて飛起きる。空は雲一つ無く久し振りの晴天。式をすませ(?)直ぐ舎を出る。汽車は10時14分札幌発。途中何事もなく12時45分パラダイスヒュッテ着。直ちに新(?)探したが其苦勞や絶大。夕食にかゝる頃、彼処の人間人 来る。夕食後散歩に出、白樺の林にかゝるたらいの如き(井上君の形容也)中秋の名月をながめ、はるかに寄宿舍のおはぎをしのぶ。僕等5人、寝についてから更に予科生がやってきたらしいが、其は明日の分になるらし。A B E

148 コマ目

10月9日、快晴。昨日の月見宴で舎生めいめい俳句を作り明日のもと、大いにたのしく遊んで今日少し寝坊した。10時過ぎ、福本・田原両君と共に盤溪奥地へハイキングを行い、スキ焼を3時間かゝってたいらげ、秋の野道を詩や歌を高唱しつつ夕方近く舎へ帰って来た。手稲行の一行は熊にも食われず無事な顔を見せている。秋の夜半の感激に心をおどらせつつ寝につく。(平井)

10月10日、月曜、小雨。学校から帰って見ると金が来ていた。これで一安心。散髪も出来ると。たまにカミソリをあてるのだ。一つおごってあれ。三越へ行ってやれ。メツチェン、我輩の顔をみて何と思ったのか”オヒゲ、そりますか”と聞いた。「当たり前だ」と言う様な面をしてうなづいたら、早速バリカンを持って来て”ヒゲ”をかけた。これは小生、少なからず驚かされた。

149コマ目

ヒゲをバリカンで刈ったのは之が初めてだ。散髪後、鏡を見たら、誰の顔だかサッパリ見当がつかん。よく見れば、やっぱり我輩の顔らしい。

序でに6階で防空展覧会を見て来た。支那の防空思想の発達しているのは驚いた。寺の門が土地道の入り口になっている。日本軍も之には案がつかなかったらしい。我々も他人事として之を見のがす事は必して出来ないと感じた。

焼夷弾の威力はこわくなった。日本の家屋は皆木造だ。特に之に対する防火法必要なるを感じり。

戦争は文化の親であり、進展の根定である。而して破壊は建設を予想する。

されどだ。諸君よ！！敗戦国のみじめさを想像し給え。親子別れ、子死なれ、路頭にさまよう。支那4億の民衆のことを考える。

150コマ目

見給え、南京には学生と云う学生は全部召集され、今一人の学生をも其の地に見出す事が出来な〔いと...編者〕云うではないか。

世の諸学兄よ、何たる幸福なことではないか。唯一人の出征軍人にさえも軍楽隊も勇ましく歓呼の声で送り得る我々日本国民の幸福さを常に考えて居らねば諸君よ、ならないぞ。昨日まで中華を以て慢りし文化の跡今何処？一朝の夢は今や焦土と化したではないか。戦は必してやるべきものにあらず。特に自国内に於てをやだ。戦をやる以上は是非とも勝たねばならない。(三木記)

10月11日、火曜日、快晴。すばらしい晴天。植物園にでも行って寝ころんで居たい様な日だった。でも仕方なく学校に出掛ける。

午前、予科生には「世界ニ於ケル日本ノ地位ト我等ノ覚悟」なる演題の下に、前内閣資源局長官、松井春生氏の文化講演あり。午後は土専、実科生に対して行われた筈だ。明日、本科マンに対してあるとの事、やはり各方面の日本国内の資源という様な事中心になって

151コマ目

述べられていた。相変わらず半分位の者は居眠りをしていたらしい。寄宿舍の傍の電車道も片側のみだけれども立派に舗装された。真白く平に走っているのを見ると気持ちいいものだ。(角)

10月12日 朝より快晴。賄の小母さん秋の大掃除に舎のトップを切った。

昨日に引き続いて松井氏の文化講演。手島教授に誘われ〔ママ - 編者〕、やる予定の

土採りに行った。皇軍、南支某地に敵前上陸し空前の成功を収めたとのこと。慶賀にたえず。今夜はとても寒い。後霜の前触れかも知れない。早く雪でも降ってくればよいが。
(田村)

10月13日 今日ひいやりする。段々じゃなくて、めっきり寒い。マントもぼつぼつ出始めた。今晚は記念祭委員は寄附募集に大童である。皆よく書いた。
南支敵前上陸成功した。線は中断された。日支事変の大団円をつげる事も近い中であろう。平和の早く来たらん為には又その今の戦時体制下においては各自その分を守る事がとくに大切だとは森本前北大教授の講演の中の一節である。〔森本前北大教授 = おそらく、農業経済学科に居た森本厚吉教授。〕

寒いな。皆風邪を引かねばよいが「医者だ、氷だ、アスピリンだ」とならぬ様に。僕は少々風邪気味だ。ジンタンでも飲もう。(角替)

10月14日 朝雨、其の後曇。

予科は第一時限のみ授業をなし、10時より中央講堂に於て秋季桜星会大会を兼ね新任教授、伊藤、青木、平田3氏の御挨拶並に紹介があった。遅刻しなかった者は西村の洋生〔菓子〕1箱を貰った。午後、記念祭庶務部員は塚越君の応援を得て、招待文の封入を行い、夜、本局にて別納郵便とする。夜、写真をやる者数人名あり。愈々応接間が完成した。

〔本局 = 現在の札幌中央郵便局の前身。1970年代半ばまで北5条通りの西7丁目にあった〕

152コマ目

10月15日(土)曇り勝ちの天候。時々晴。

昨夜台所の黒板に「17日昼食握飯」と書いておいた所、小母さんが何の勘違いをしたか知らぬが、今朝になって見ると、ちゃんと握飯が出来ていた。いささかくさったが持参、教室で食べる。

秋の夜長を映画鑑賞に耽る者あり。平山、阿部の諸氏は東宝へ。田村、三木の諸氏は帝国座へ。かく云う私も帝国座に入ってみた。帝国座には初めて入ってみたのだが、案外ごんまりした感じのよい劇場である。(渡辺操)

10月16日(日)9時起床して空を見ると案外良い天気らしかった、然し1時間も立つか立たない内に一帯に曇ってしまった。冷たい風がピューピューと頬を打つ。もう内地の12月頃の気候ではあるまいか。円山付近に散歩に行ったら三角山、満山紅葉して居て何とも言い得ぬ景色であった。多くの人が紅葉狩りに行くのが見とめられた。内地だったら此の頃は天高く馬肥ゆる秋とか言って、非常に快晴が続いて、毎日青い／＼空を眺めて居られるのだが、もう此所では雪でも降りそうな様子だ。あゝ晩秋！！黄色の木の葉がヒラ／＼と窓辺に降ってくる。

今日は日曜日であった為、12号室、10号室は秋期大掃除を執行したらしかった。(塚越喜一郎)

10月17日(月曜)今暁雪らしきもの降りたるも例の朝寝坊がわざわざいして単に其の形骸しかうかがうを得ず。然し寒い。朝?から部屋に炭火をカンカンにおこして机にかじりつくが何にも出来ない。早くストーブが入れば良いが、午後霰が降る。かと思うと雨、風呂から帰って来る時、東の空に虹が二つかゝって居た。夕刻より遂に晴れる。

153コマ目

夜は一層寒さを増す事であろう。書忘れたが、今日は神嘗祭で学校は休み。A B E

10月18日(火)快晴。舎生一同元気。異常なし。

10月19日(水)快晴。靖国神社臨時大祭。学校休。

今日は護国の為に異国の戦線で散った英霊の故国に神鎮まります日である。畏くも天皇陛下は10時 分に後参拝なされ其の時をきし、全国民一斉に1分間の黙禱をさへげた。護国の花と散りし同胞の上に我々は心からなる感謝をささげねはならぬ。戦争そのものは如何なる為に戦われておっても。

今日の休みを利用して桜星会の野球大会があり、舎からも田原、阿部、山根、渡辺の諸君、出場したらしいが、1回戦又は2回戦でことごとく敗れ去ったとの事。田村、角、井上の諸君、牛鍋かついで発寒へ。紅葉を燃やして一寸風流をしに行ったらしい。

玉山、河口、角替の諸君、猛勉強。他の舎生の中には昼又は夜に映画を見に行つた者もある。テニスコート新設資金はや5円集まる。来年は愈々待望のテニスコートも出来るぞ。副舎長、福本氏、舎庭で伊藤亀さんの家の子供と共に犬と戯れておる。ハラノと庭木の紅葉は散って居た。YANAGAWA

10月20日(木)快晴。最近寒さが強くなり、初雪も有つたので、愈々北国の冬も近いとの感があった。昨日今日は珍しく快晴が続いて、気持ちよい秋の日和にめぐまれた。

田原

10月21日金 晴後曇。三度颱風関東を襲う。都会の人々よ、支那軍の空襲と思え。

154コマ目

本日決算を行う。委員2名欠席。物価騰貴の折柄、食事部員よく奮闘して好成績をあぐ。我等は謹みて謝意を表す。

実科、工学部の試験、今、酣なり。3期制の予科生に比べると、一寸気の毒である。予科生よ、友を愛するの心あらば、今少しく静粛なれ。 平山

10月24日(月)曇時々晴。土日は遠乗で居なくて、ブランクになった。「楓林」の原稿集まり、200枚を突破するかもしれない。空前ではある。内容のあるもの・ないもの、量で行くもの・題で行くもの、多士済々ではある。

寄宿舍は多くの人々の居る所である。人との接触が多い。これが勉強だ。協調的であろう。卑屈な妥協を要求するのではない。人を攻撃する気持ちを持つてはいけない。人を非難する前に己を省みて見給え。人を非難するその事、その態度に自ら非難すべきものがないか？自身を攻撃するに暇ない筈のあなたに、どうして人を攻撃するなどの余裕があるのか？修めよう、闘おう。心を割る一人の友なき人は不幸なるかな。不幸に敗れる人は禍なるかな。福本。

10月25日(火)晴後曇。昨日から微熱で床にあった平山さん今日俄然高熱に苦しめらる。風邪と遠乗会の疲労の為らしい。

学生ホールでスキー部のスキー及び付属品購入会が行われた。我々1年生、スキーの陳列を眺めて、心は遠く冬の銀世界の上に飛んで行く。渡辺

155コマ目

10月26日(水)晴。

大分秋も終わりに近づいた。風もないのに木の葉が散り、何かしら淋しい、感傷的な此の頃である。真っ赤に色取られる内地の秋に比して、北海道のそれは非常に黄色が多いよ

うに思われる。午後から稍々風が出だしたが、北国としては小春日和と言っても良い1日だった。平山さんの病気も大分よくなったらしい。 河口

10月27日(木) 晴れ

武漢の占領の話で持ち切る。学校では提灯行列の掲示が出た。7時少し前にサイレンが鳴った。花火が鳴った。近所の子供が「万歳、／＼」と叫んで居る。終に武漢三鎮を占領した。「(10月27日午後6時30分大本営陸海軍部公表)今27日我軍は午後5時30分陸海軍協力、殊敵を掃蕩し、武漢三鎮を完全に攻略せり。」

日本は遂に漢口を占領した。しかしまだ事変は終わったのではない。日本は支那とばかり戦って居るのではない。全世界を相手にして東洋平和の為に戦って居るのである。我々は事変の後に来るものに対して万全の注意を払う必要があるのではないか。列強の対日干渉今後絶対に有り得ないと誰が断言出来よう。

ラジオは「武漢攻略祝賀の夕」をやって居る。武漢攻略を祝うべし。前線将士に感謝すべし。更に国民精神を総動員すべし。玉山

10月28日(金) 快晴

朝窓を開くとあたりは一面もやががっていて天涯だけが碧として晴れていた。今日で大分晴が続く。晩秋の気、大いに加わる。道庁前の杏も既に黄色くなった。エルムの梢も日一日と淋しくなっていく。

156コマ目

若木の散った尖枝が針の様に天空をついている有様は秋にだけしか見られぬ風趣である。風も大して吹かないのに突然驚いた様に梢が鳴ってさら／＼と落葉するのを見るのは洵にあわれが深い。

りんごがそろ／＼枯れかゝって来た葉陰に優美に光っている有様は中々淋しい感がする。すべての自然が次第々々に沈黙と死の中に引き込まれて行く様な気がしてならない。北海道の冬を越すのは初めてである。なんとなく一首の不安を感じず。北海道の6月には大なる輝と活動があった。あの頃は思い出ただけでも心持よい季節である。すべての自然が朝早くから出て夕方遅く入る太陽の熱と光とを十分に吸い、燦として輝いていた。それに比べると今は何と静かなる気持ちのする季節であろう。

併しながら我々はこれと反対に大いに動きつゝある。今や漢口も陥落した。これを契機として我々は大いに自重して我々の分を尽くさねばなるまい。

今夜は多数の人が提灯行列に参加した。午後には小学生・女学生等の旗行列があり、札幌の町も大分賑かであった。(午後7時半記之 井上)

10月29日 一時限、中央講堂に漢口陥落記念式あり。舎生一同出席す。真実もって芽出度き事なり。されど勝って兜の緒をしめよとか。我等益々自戒自肅、各々の分を励まざればならず。午後、春の如きうら／＼の大空の下、外出する者極めて多し。

157コマ目

本日神宮外苑に秋期スポーツ界の一大イベント早慶戦行わる。攻める者、守る者互いに秘術をつかう血みどろの戦い。両軍投手総動員の後、7A-5で城北に凱歌揚る。ABE

10月30日、曇(日曜)

河口、阿部両君と朝1時まで駄弁べる。河口君、冬休みは阿部君のところへ行くとか。3人で家庭のこと迄話がのびる。河口君は少々センチになる。阿部君俄然、坊や振りを発

揮する。阿部君が家に帰るとモチ菓子が3倍に増加する由。朝から風強し。葉はげしい。寄宿舍の前のローンは落葉で見えない程だ。雪かも知れない。(三木)

10月30日(続)(日)晴天。午後雨模様。風が割に強く、そのためか木の葉が次第に落ちて、後にみにくい姿のみを残しつつある。

午前中に今度入舎する事になった菅沼君(農類1年)が引越して来る筈だったが何か都合で延びたらしく遂に今日中に見えなかった。舎生の多くは何れかに出動したらしく、残る者ピンポンに興じていたらしい。(角)

10月31日(月)今日は第一学期最後の日。昨日の風ですっかり落葉し立木は何となく明くなった。3日も予定よりのびて、ストーブの取付け、何となくうれしい。雪の降る様になるのも遠くはあるまい。夜は8時25分より新入舎生、菅沼君の歓迎コンパに平山君の全快祝いをかねて行う。お菓子は平山君御奮発の由、感謝に堪えず。角替君、試験終了し得意の詩吟をうたう。悩まさるゝこと甚し。(田村)

158コマ目

11月1日 田村さん誠に済みません。詩吟の趣も又いいものですよ。僕は、詩吟の才があるのかもしれんと(アハ...)

今日は初めて遅刻した。行ったら河口教授は講義の最中。明日は早く行こう。学校に遅刻する事は誉めた事ではない。過ぐれば不良学生とも見られるかもしれない。早起きを以て無駄の労力と思う勿れ諸君。

今日は教練を見学した。13番先生のジェスチュア宜しく名教授には感激する。所が余り寒いので皆がそれについて行かないのは残念だった。中村老大尉は見学だ。僕は寒くて、トリハダができた。手が赤くなる。こんなら教練した方が楽かもしれん。

図書閲覧室に勉、6時頃まで頑張る。居る者2人だった。それまでに文藝春秋の「土と兵隊」を読む〔 〕。出征より上海の敵前上陸迄の船上生活。それは実に何とも言えない悲壮な感じを読者に与える(ウソジャヤナイ。嘘と思う者は読んで見るべし)。作者の分隊長としての責任を、そうして分隊を守ること、全員の命を存在出来ること...之はただ自分が真先に命を投げ出すことだと悟るあたり実にいい。支那の母と子、老婆、支那の少年...。人生の最大悲劇をここに見る思いあり。読むべし諸君。

僕らは之によって戦争の...なるを身につくづく感ずるのだ。平和よ早く来れ、と祈らざるを得ないのである。〔この段落、欄外に書き加えられた記述〕

中に愉快なるユーモアあり。作者が行軍に悩みつかれ、ふと見ると之も同じ行軍の輸送対の一軍、悪戦苦闘、馬は何度か横倒しになる、兵隊は砲をかつぐ。その様、その光景、その体〔ママ〕の動作は全く美しいものだった。美しく勇ましいものだとある。きっとそうだ。それによって、更に励まされて進む。読んでいく中に僕は思わず笑いが出て来たり、さらに本をのぞき込んだりだった。

図書館を出たら真暗だった。3ヶ月空に冷い光を放って下界を照らしている。僕は思わずブルブルとして、フーと息を大きくはいた。TS

〔 火野葦平「土と兵隊」(『文芸春秋』1938年11月号掲載)のこと。火野が前年9月に召集され、10月、杭州湾に敵前上陸した時の自身の経験を作品化したもの。検閲されていた部分等を戦後、書き直して、出版した。〕

159 - 160コマ目 2007.6.24

1 1月2日(晴)夕食後記念祭委員は準備に取り掛った。饗応は食事材料の注文へ、接待係は打紙細工で鶴を折り装飾に余念がない。

庶務部では角君の室で記念祭に送られた寄附に対する礼状を書いている。記念祭当日の祝辞は4名と発表された。昨日今日急激に温度が低下した。(ヤマネ)

1 1月3日(晴)明治節。皇軍、漢口入城式。

我青年寄宿舍の第41回記念祭挙行。私達舎生一同が張り切って待っていた記念式は宮部先生を始め、先輩8名の方(前川、鈴木、笹部、平戸、亀井、山口、北村、青木の諸氏)の御出席を得て、午後2時半を少し過ぎた頃より始められた。その式順は次の如くである。

- 一、開会の辞 柳川君
- 一、記念祭歌合唱
- 一、副舎長挨拶
- 一、舎生祝辞(渡辺健、平井、河口、河口、渡辺の諸君)
- 一、先輩祝辞(鈴木、亀井、山口の諸氏)
- 一、宮部先生御祝辞
- 一、祝辞、祝電披露 山根君
- 一、舎の万歳三唱
- 一、宮部先生の万歳三唱
- 一、閉会の辞 角君

4時近く終了。表にて記念撮影。正5時より晚餐会に移る。大体洋食。中々の御馳走有り。饗応委員の苦心の程がうかがわれた。6時30分、先生を始め先輩の方々はお帰りになる。あとは舎生だけのコンパ。先ず玉山技師映写の「宮部先生の御日常」なる8ミリを鑑賞。夫れより各自思い思いの余興を披露。甚だ滑の稽なるものあり。9時40分会を終わった。月が美しい。エネルギーが余って、外に飛び出し、ストームをやる連中あり。今日は一日中、愉快であった。

1 1月4日、金曜日

未だ小春日和が続く。何時までも尽きせぬ様に。菊花も特に美しく見える。内地の秋に変わらない。今晚も美しき月が室内に照り込んでくる。青い光が黄色い電灯の光にけされて居る。遠くがぼうっとして居る。我々の心を何となく落ち着かせない。多くの方は此の景色に浮かされて散歩に出たらしい。黒い影を地上に落として歯音も高くアスファルトの路を行く愉快さ。真赤な紅葉が電灯に映えて居た。(塚越生)

先輩鈴木氏より奈良漬が届く。

1 1月5日(土)秋雨しゃり／＼として降る。時おり一陣の風さっと起こり落ち葉が舞う。冬近し。遠山は雨にけぶりでおる。晴れたら白くなっておるだろう。記念祭事務も無事終了した。舎生一同の労苦の賜である。支払日、月の末日は会計の厄日に御座候。

雨降れど割合に暖し。鈴木先輩ではないが、全く気候が変だ。寄宿舍の石炭代も助かる。この位の寒さでは諸君はストーブをたいて居ない事と思う。国策の線にそって自重自戒されん事を。河口君、書留のことで大騒ぎ。金があつて何よりだ。(yYa)

1 6 1 コマ目 2007.6.25

1 1月6日

小生入舎以来はじめての日記であり又これが舎の公用である。昨日に引きかえ今日ほど

うにか雨が降らないくらいの晴天。それでも何時もなら今時は降雪中との事だが、今後一冬中はもう晴天の日もないと思ってか、舎生皆明日の宿題も忘れてか？心身鍛練と口実の本に御外出だった？秋の長夜もすぎ初冬となるにつれ、夜遅く読書しているととなんとなし両親を思い兄弟を思ってセンチになるが、誰しもそうだろう。まして小説を読んでいて、ふと気が付くと火鉢の火も残り少なくなっていた場合はなおさらだ。(KS)

1 1月7日 朝寝坊が多く、珍しくも井上君が休んだ。曇りがちの天候。予科の査閲の発表があった。皆ストーブを燃しだした。寒い冬が近づいた。

1 1月8日 終日雨、雷あり。

国民中一人として戦争の一日も早く終わらん事を願わざるはあるまい。あればそれは嘔吐き然らざれば悪魔。それにも拘わらず戦わなければならない。その事を心底から自覚するもの幾割か。いや凡ての人に要求される事である。であるからこそ戦争は悲劇であるのだ。時局の認識とはこの悲劇の森叢の認識である。がこの認識は考えるほど容易くはない。容易くはないぞ諸君。何時の場合にも恐れ排すべきは物事の浅薄皮相な解釈である。この時殊に国家百年の正義を誤るものは寧ろこれである。心すべし。雷雨夜深まって止み、月出でんとす。明日は査閲なり。(福本)

1 1月9日 昨日の雨にもかゝらず今朝はカラリと晴れあがる。今日は予科の査閲の
1 6 2 コマ目 2006.6 書き取り

行わる。全体の閲兵分列非常によいとの評。夜、舎内非常に静か。試験勉強にそろ／＼取りかゝったのか？

1 1月10日 雨～雪 国民精神作興週間()とやらで今日第一時限は「国民精神作興二関スル詔書」及び「事変一周年記念日二下サレタ勅語」の奉読式のためなし。〔前年から始まった戦意高揚策の一環〕

空は薄曇で低くどことなしに煙ってある今日の札幌はもう完全に冬景色だ。10時頃から降り出した雨も正午すぎには雪をまじへた方には大粒の雪も降った。ストーブを囲んでスキー靴に油をぬる懐しい季節がまたやって来たのだ。(河口)

1 1月11日 金 雨

学部ノ教練査閲。雨天ニモ拘ハラズ渡辺操、平山両君と僕〔玉山 - 編集者〕ガ出席。八時予科ノ体操場ニ集合。工医出席率良好。一年目東軍と二年目西軍トノ對抗演習。相変ラズ雨ガ止マナイノデ泥濘ノ道ヲ難行軍シテ飛行場〔現在の札幌市北区北24条以北、西5-8丁目のあたり... 編者注〕ノ東方、創成川ヲ渡ッテ石狩街道ヲ経キテ更ニ三四丁行ッタ所ニ着イタ時八雨ハモウ肌マデ通ッテシマッテ居タ。寒サニフルエナガラ休憩。十時ヨリ演習開始。

平山(常雄 - 日誌書込み)部隊長ノ指揮スル尖兵ノ援護ノモトニ煙幕ヲ利用。創成川ヲ強行渡河。直チニ第二中隊(工・医)ハ左ニ展開、敵ヲ包圍シヤウトシタ。麦畑ヲ数丁進ンデ飛行場ノ東端ニ達スルト敵ハスデニ飛行場内ニ散開シテ居ル。シカモ飛行場ノ周囲ハ幅約五米ノクリークデ囲マレテ居リ夜来ノ雨デ水ガ増エテ居ル。第二中隊ノ正面ニハ全ク渡河材料ガナイ。雨デビシヨ濡レニナツツイデダト一部ハ勇敢ニモ、ヒザヲ越ス水ノ中ヲジャブンザアト壮烈ナル敵前渡河ヲ敢行。中ニハ深ミニハマッテ下半身ズブ濡レニナツタ

1 6 3 コマ目

モノガアッタ。飛行場ノ中央デ突撃、ツイデ閲兵分列。査閲官ノ講評「良好デアッタ。年ニ一度シカ教練ヲヤラナイニシテハヨク出来タ。...閲兵分列ニ分列ハヨク出来タ。...」。学校ニ歸ッテ解列シタノガ十二時少シ前。

夜、舎八雨ノセイカ静カ。中ニ八外出シテ戻ルモノモアル。盜賊交響樂ノ評判悪シ。(玉)

11月12日 土 晴れたり曇ったり

手稲山が白くなり出した。一週間もすればスキーも出来るだろう。ひる頃一寸雪曇りになったけれども夕方よりすばらしき晴天となる。今日は農類1年はドイツ語の試験有り。塚越君は午後キノー〔映画 - 編者〕に行く。我輩は今日より演奏会の準備にて忙しい。尚今日皇軍は岳州〔湖南省の茶と陶器で有名な古地 * 編集者〕を占領した。夜は大分寒くなり月が出た(井上記)

11月13日 日曜

日曜日だが割に早く起きた。北2条を20分ほど散歩して来た。頭が調子よくなった。

河口さん9時なのにまだ起きそうにもない。お昼から丸井の4階で北大黒百合会の絵を見に行く。油絵より水彩の方がよくかけていた様だ。(三木)夕方から雪がチラノゝする。

11月14日 月曜、曇。今朝、先ず白き雪が目に入った。昨夜から降っていたものだ。手稲は完全に真白くなってしまった。そろノゝスキーが出来るかも知らない。今日は寒い。朝の雪が消えない処がある位だ。

164コマ目 2007.6.8 以下五コマ

11月15日 快晴に恵まれるも朝は寒い。皆朝起きるのが遅い。危うくセイフする人が多いだろう。僕は教室に入ったとたん返事をした。英語の萩原さんだった。帰ったら皆未だ来て居なかった。河口が一人熱心に洗濯をしていた。オバさんは夕の食事に大童だった。廊下は暗い気味が悪い位だ。此頃皆よく勉強するようだ。今も静かだ。今日は高岡先生の南洋についてお話がある。場所は市会議所。石炭を儉約するので室もいつもより暖かくない。物置の石炭は山の様だ。国策の線に沿って石炭節約大いに結構なことだ。寒い位が眠くならなくて有益だ。どっちにもよい。〔高岡先生 = 前北大総長(在 1933-1937)の高岡熊雄名誉教授のこと。戦前日本の植民学の権威。〕

講演に行った。池田善長氏の北支島開発の基調と題する講演、それから南洋について高岡先生の講演だった。日本の両極端についてのお話、有益だった。市民も多数押しかけて、この方面の関心の高い事を示した。中は女性も数人混じっていた。北大学生相当居た。寄宿舍の人達は試験勉強のためか余り見られなかった。

11月16日(水)雨。登校途中の道路は甚だしいぬかるみ。3時限目・4時限目に総務委員立候補者の演説があり、夜は夕食が終わるや否や、皆自室に引き籠もり舎内は水を打った様な?静けさである。福本君は講義のため遠友夜学へ。来る日曜日にはスキーをやりと張り切っている者もいるが、どうやら雪も降りそうもない。(山根)

165コマ目

11月17日(木)雨後曇。朝から雨だ。氷雨に近い奴だろう。夕方には已に止んでいた。此の頃は論文の材料整理に時間を取られ、どうしても帰舎時刻がおそくなってう。従って夕食をしに食堂に出てみると、柳川君と田村君に時々会う位のものだ。食後「楓林」をよむ。馬鹿に立派になった。委員の努力の結果であろう。将来共、益々立派になるよう

に... (渡辺操)

11月18日(金)予科生全部、平常サボった為か、猛弁をやり出した様だ。何時見てもスリッパが二つちゃんと並んで居る。僕もハリ切らないのだが、駄目だ。外の人がしゃくにさわる。

ふりくらしたる夕べ身にしみる秋風ならぬ冬風みをきる如くなるもつれなし。しづけきしづくも今となりてはをどろ／＼しくおぼゆ。古え人のあわれ心もおこらず。たゞつれなくのみなりゆく。此の夕べいかなる人にやあらん ことひくもゆかし。(塚越)

11月19日(土)塚越の君。ふりくらしなる夕べにをどろ／＼しくなりにけるらむ。いといみじきに をのへる、オカシとおぼゆる。しかし変だ。僕のカレンダーでは一大のは正しく土曜日だから19日のことを又書く。

久し振りに晴れたなあと思って喜んで居る中にくもり、またく間に降り出した、冷たい雨に音をたたくれ乍ら落ち葉をふんで帰る位淋しきものはない。傘を持って来て呉れる人

166コマ目

ないのに部屋を暖めてお八つを用意して居て 居る人が で居ようかと考えると物凄いまでに味気ない。こういう日は圓山行にこした事はない。早々に圓山に行く。

本日秋晴れの帝都にホッケーの早慶戦あり。熱戦の末KEIO快勝。合せて関東学生ホッケーリーグ戦の覇権もにぎる。いとめでたき事なれ。ABE

11月20日(日)今日初めて滑れる程の雪なり。舎生の一部、初スキーに円山に行き、2時過ぎ帰舎。(KS)

11月21日(月)

楽しい日曜日を送って今日から又この1週間を愉快地に送ろうと思っているのか朝の舎生の顔はほがらかだ。昨日の雪が凍っていて身を切る様な寒さである。凍った道をさく／＼と音をたてて登校する時は実に爽やかな気分がする。夕食もエネルギーの多い 料理である。食後数名の者は散歩に又買物に出かけた様である。各部署委員は決算である。おちついたしずかな1日を送った感が深い。舎生一同風邪にならぬ様。平井

11月22日 だん／＼と冬に入っていく。降った雪も解けずに積もって居る然し今日は割合に暖かい。舎の予科生の勉強物凄きものあるは、予科も近頃はせち辛くなった為なるべし。勉強しすぎて体を悪くしない様にするか肝要なり。舎生諸兄の自愛を祈る。昨日も今日も北鎮健児勇躍して戦地に向て町は万歳の声であふれておる。

北大マンドリン部の公開演奏会あり。(柳川)

167コマ目

11月23日。今日は新嘗祭で休みであるが、舎生は試験勉強のためか、 少な、夜、公会堂にて札幌交響楽団の演奏会あり。井上君と我輩と出たが、中々の盛会で、青年寄宿舍の方々ががず／＼お見えになられた事は非常に喜しく思われ、又、感謝に耐えぬ所ではありますが、尚事を進めて我が親愛なる舎生が我が札幌交響楽団に加盟せられて其の天賦の楽才をいたずらに埋らす事無く十分に発揮せられ して幌都のレディー・エンド・ジェントルマンの前にその妙技をふるわれん事を希望します。

尚当日の井上君のピアノは、その音律と云いテクニックと言ひ素晴らしいもので、場内を色どって居た、きらびやかな令嬢、メツチェンのたぐいは全く本当に感激して居たようです。ウンともスンとも発音せず、固唾を飲んで「見物」していた様に拝見され、又事あら

ば何とか申さんと期待して居たであろう同僚諸君も恍惚を乗り越して、うつらうつらとタクトに合わせての全身運動は察するに余りあり？

尚之は全く云いたくない事だが、我輩のガイドである、練習不足の傾きが多分に有るにもかかわらず、いや、ノーノーそれはそうとして、結論を言うと半沈・全沈、取り混ぜて中々に多量に汗をかきました。終り。TM

11月24日(木)曇

終日曇天で雪も降らず、寒さが寒さに近くなった。

明日から防空演習。遮光材料購入するものあり。1号室 - 防空当室。明日の夕食はこゝで。一昨日、朽木予科教授夫人死す。昨日葬儀。福本。(焼き芋が焼けた様だ。どれ一つ)

168コマ目

昭和9年以来綿々と続いて今年初頭には漸く半ばに達したに過ぎなかったこの日記帳も、舎生一同の廻記となってからは忽ち紙数を費やして、この勢ならば今年末には終わりそう。新年からは新しいのを使おうか。

11月25日(金)朝目を覚ますと待望の雪、々。舎生一同、雪を見てはスキーを思い、思いなしか、晴れやかな顔つきに見える。「放課後行けるぞ」と張切り、「1日早かった」と嘆く者等々。午前中降り続き、午後も時々時雨れる。気の早い4、5人、5限放課後に意気陽然と〔ママ〕スキーを肩に荒井山へ。その他の残留4、5人、我が輩もその一人だが、舎の横のわずかにスロープらしきものを後生大事に何辺も々々も滑る。

今日は防空演習の第一日。1号室に遮光紙をはり付け、ライスカレーの夕食をつつましやか？に採る。各部屋も夫々遮光し、舎の燈火管制、満点に近し。渡辺

11月26日(土)雪。2日続きの降雪、しかも今日は土曜日。舎生の張り切り方はすごいものであった。昼食後たゞちにスキー準備に取りかかり、1時過ぎ出発。菅沼君をのぞくほか、1年生全部が出動。それに柳川、渡辺、福本、山根の諸氏、それに私も加わって、源ちゃんスロープに向かった。未だ相当のブッシュはあったが、皆元気で、大いに頑張った。帰りは双子山に出て帰る。車中にて田村、阿部の2君に会う。燈火管制第二夜、今晚は一晩中也。河口

11月27日(日)朝5時半に起きて軽い朝食後、ヒュッテの向いのスロープでゲレンデをやった。笹の上のほうが未だ出ているが、今朝はスキー靴の凍る位寒かったので、月室は100%。9時半、又飯を食べて、10時半にヒュッテを出発、を下る。登ってくる人も可成りある。軽川の近くで又、1時間以上、ゲレンデをやったが、雪の質はよくなかった。1時迄に札幌に着いて舎に帰ると、舎生の大半はスキーに行って居た。

夜は久し振りのスキ焼で元気を付けた。/無記名/

169コマ目

11月28日(月)晴。雪が少しとけて軒に長いツラゝが降りる。内地の者にとっては珍しいものである。夜、学生ホールで山岳部合宿準備会があり、合宿の注意などを聞いた。夜は寒くなって来た。新聞に昨日、旅客機遭難の報が在った。井上

11月29日(火)今日は又、朝から雪がちら／＼と降る。このまゝ根雪となるのだから。共済部に於てスキー、ストック、渡される。(みき)

11月30日(水)今日も別に変わった事はなかった。唯今日一日で11月も終わるのかと思うと残念の様な、あせる様な気持がする。

昨夜、月次会の日と委員が発表された。今週の土曜日。

1年生、スキーを受け取ってきてうれしそうだ。まだ受け取らぬ人も多いが。夜に入ってから、また雪が降り出した。今年は雪が実に多い。百姓も来年は豊作だと喜んでいるいる事だろう。

夕刊には、エルム学園の極左学生の件が記事解禁とて出していた。

170 コマ目

独逸のコンドル機、出発以来好調にて、明朝には日本に英姿を現すであろうと。(角記)

12月1日(木)今日は愈々12月1日だ。早朝より、うすい雪雲が青空に境ノママノ所ノひせられて飛んでいるのも北国の冬らしい。昨夜5寸ほど雪が降ったがサボル者は一人も居ない。訪日コンドル機、昨夜10時無事東京着。盟邦ドイツの工学界の進歩と操縦技術の優秀さにはたゞノ驚嘆の外ない。(田村)

12月2日(金)目が覚めたらもう8時半になっていた。顔をさっと洗って朝飯を食べる暇もなく学校に行ったら丁度間に合った。道は雪解けでぐしゃぐしゃしている。皆試験で忙しそう。登校も早い。夕食を遅く食べた。未だ数人食べてない。

ノ付箋ノしてある。舎内、同室のT君は午後スキーから帰って猛勉強。すごい馬力だ。(角替)

12月3日(土)晴、午後、舎生の過半数は外出す。塚越・井上・渡辺健の諸君は、合宿のリーダーに引率されてスキーへ行く。福本君は製図らし。

夜7時より本年最後の月次会あり。出席者宮部舎長、植岡・荘保の2先輩、山口千之助先輩。植岡氏は今度、三島の重砲連隊へ二等兵として来年1月10日入営になられることになり、お別れに来られたのである。漢口既に陥落し戦局の拡大すると共に、国民は緊禪一番を要する時である。植岡先輩の御奮闘を祈る。

荘保氏は予科の2年生まで当舎に居られ、予科卒業と共にドイツへ行かれ、昨年再び北大農学部畜産に来られた由。9年ぶりに見る寄宿舎が何一つ9年前の様子と変わって居らず、其の進歩の遅々たるに驚くと共に、又一方非常に懐旧の情に堪えぬ

171 コマ目

と前置きされてから、躍進日本を双肩に荷って立つ諸君等青年は自惚れる前に今一度の反省が必要であると言った意味の大演説があった。9時過ぎになったが、僕はあまり来舎の機会がありませんからと言われて更に9時から10時頃まで、氏が独逸に行かれたときのお話を断片的に話された。式後茶菓。

先生方が帰られてから来学期度の各部委員改選があった。

会計部・田村君、食事部・角君・井上君、文芸部・渡辺健君、運動部・山根、衛生部・阿部君。

12月4日、晴。日が照って大分雪がとけた。ゴム長の有り難さを沁々感ず。渡辺操君、奥手稲へスキー行。柳川君、早朝より起き出てドタバタやって居ると思ったら、僕が起きた時は奥手稲に行かれた由、見えなかった。福チャンに誘惑されて、メツェン・スロープに行く。甚だしい融雪で、興味なきこと夥し。

午後2時7分室蘭行き列車にて植岡氏、幌都を後にさる。舎生一同駅にて万歳の声と共にお別れす。植岡さんどうかお元気で。

12月5日。晴後曇、時々小雨。あられ、風吹く。

折角つもりかけた雪も、この気温では大分とけたらしい。新聞を見ると玉錦が死んだとある。この夏、釧路で見た彼の巨軀を思い浮かべて見た。〔玉錦 = 第32代横綱〕。夜は珍しい程風が吹いた。時々あられを伴って。この頃は外出する者も少い。試験が近づいたせいだろう。(操)

12月6日。雪後晴。昨夜来の雪も午後すっかり止んで、暖かい太陽が顔を出した。此の暖の為、融雪甚し。大きなつらゝもなくなってしまった。昨夜盛んに落ちて居たのは軒のツラゝであったのだ。

172コマ目

農類2年生3人は今日化学の試験があったそうだ。誰も「俺はコンデだ〔 〕」等と言っても、ほんとうは良く出来たらしい。元気がよい。特に山根さんなんか。〔コンデ = おそらく条件付きという意味のコンディショナルから来た言葉であろう - 編者〕

試験と言えば僕等の試験ももう旬日の後に迫って居る。何とか越さねばならぬ。丁度借金多い人の家の年の瀬の様だ。色々と奔走して越してみたい。居留守なんかまっぴらだ。舎の人も奔走し始めたらしい。もう大分目鼻がついたことだろう。真逆、夜にげはしないだろう。(塚越)

12月7日 かつ降り、かつ照りて一日終わる。寒々とした月の下、満月ただ白く、凱々として風のみ荒る。

コンドル機、マニラ付近の海上に不時着。盟邦のはかなき存在として、謹しみ同情の意を表す。

予科試験、愈々迫る。皆準備既にO.K.と見えて、極めてのんびりとあらせられる。これから火の車は我独りか。いや、ひがむな、ひがむな。A B E

12月8日、晴。僕が歯痛でユーウツになっている外、皆元気で試験準備に忙しい。どの部屋もきわめて静かだ。(平井)

12月9日。昨日の天気引き替え今日は一日雪降りだった。学期末試験も近づき予科生一同、日頃とくらべ如何にも憂鬱な感を抱いてるようだが、その中になんともなく張り切っている様にも思われる。

運動と勉強は同時に両立せぬ為か、猛勉強後の運動に僅かな時間を利用しスキーに専心する舎生こそは利巧な勉強法であり又利口な人である。

173コマ

平井君、歯痛で止むを得ず休校す。こういう誰しもかつては経験した事は有ると思う。僕もその一人だ。影ながら同情する者の一人です。K.J.

12月10日(土)朝からちらほらしていた雪が昼頃から猛吹雪となり、一寸先も見えぬ様になってきた。札幌らしい冬がきた。粉雪がとびかう様は何とも言えない。予科の連中試験を間近にして青息吐息でも、英雄閑日有りか、夜駄べっておるものもある。

12月11日。雪曇になっている空からは、時にははらはらと粉雪が散る。今日の絶好の雪の為に舎生スキーに出掛けるもの多数あり。玉山君は春香山へ、平山、田村、渡辺操、山根、福本の諸君は円山にゆく。絶好のコンディションなりとて昼頃かえる。試験を前にして予科生2君のスキー行には感激の外なし。これも日頃の勉強の賜なるべし。故人いわずや、「よくあそび、よくまなべ」と。夜はスキ焼きによりファイトを付ける。(柳川)

12月12日。窓の前のつらゝはもう長々と伸びて、その先端から円いしずくがポタリ

／＼と落ちて居るのを見ると、試験前のせか／＼した気持も幾分かなぐさめられる。真白に積もった雪ににぶい色の光が射し薄黒い影がその上に横たわって居る。

北鎮部隊の帰還に札幌は明朗らかである。只ご苦労様と感謝する気持ちで一杯だ。

12月13日 - 16日。

試験が14日から始まって日記を付け忘れていた。14日予科休み・戦闘準備。14日開始。柳川さん病気、14, 15, 16日休む。14日一日中降り続けて遂に積雪1米突破。予科生惜しがる。(福本)

174コマ目

12月18日。試験も残るあと1日。最後の頑張りに予科生諸君の勉強は続く。今日は又思い出したかの様に、はらはらと小雪が静かに降り続く。(渡辺)

12月20日。予科生試験終了。皆欣喜雀躍たり。夜、「天政」にて離別コンパを行う。合宿に帰省に忙しくも楽しき夜は更けていく。(河口){ 天政 = 北5条通りにあった食堂}

12月21日。予科生諸君、試験とコンパに溺れてゆっくり寝ている間に学校に行しや。朝7時山根君と河口君、ニセコ山の家へ。心臓は山を征服するの一例なるべし。

9時の急行では菅沼君、第一番目に帰省。昼、平井君、3時に田原君、6時十勝行、後9時角替君と田村君。朝より福本君、三段へ。昼からは東日ヒュッテへ。

12月22日。朝、柳川君ニセコへ。7時、角君、9時、平山君、及び足痛の為終に残念にも悲壮にも、兎に角前日痛む足を引きづってニックスを買いに行った 終に合宿を断念して帰省。之は足痛、終に山を征服せず、なり。10時阿部君、ニセコ合宿へ。これで残り3名となる。

12月23日。渡辺さんは荒井山および東宝へ。福本君は札幌嶽に行くも又終に頂上に行かずして帰る。僕は月寒の教練へ。福本君がまだ2、3日居るそうだから明日から日記をお願いします。(玉山)

12月24日、土。朝から降り出した流れる様な雪は息もつかずに夜中まで続いた。北5条線は朝9時頃にもう止まってしまって、一日中静かで良かった。夕方までにはもう2尺もつもったろうという事だった。

夕方、山根君がニセコから凱旋して来た。玉山さんは今晚外泊、明日帰郷の由。夕方の急行で渡辺操さん御帰り。

12月25日(日)朝から夜まで殆ど大雪の連続。5条通りの電車は完全に不通。午後福本君と三越に行く。のし餅とお供えを注文する。夜レコードを聴く。

12月26日(月)昨日に引き替え気持ちよい青空。柔らかい陽射しを見る。電車は今日も一日中不通。4時に夕食(うどん)を終わって福本君を駅に見送る。

175コマ目

支払い終わる。

学生課より、1.無条約時代と我が海軍、2.国際情勢と海軍問題、3.輝く軍艦旗、のパンフレット4冊を寄贈さる。今日より小生一人が寄宿舎守だ。

12月27日(火)晴。午後に至りて漸く5条の電車は単線のみ開通せり。他の1線は人馬に踏み固められた2寸位の積雪のため当分運転の見込み樹たざる模様なり。昼間は柔らかき日射しのため比較的温暖なれども夜間は寒気極めて厳しく外出時には耳、こめかみ

等の疼痛を覚ゆ。燃料節約の意より食事は自室にて摂る。

12月28日(水)朝より少しく吹雪く。午後小雪。零下14度。

12月29日(木)朝晴、午後小雪。いくらストーブを燃しても背中がぞくぞくとする程。こんな寒さは久し振りだ。其れも其の筈此の3日間は平均マイナス12度だそうだ。夕刻5時三木君、十勝より凱旋して来る。山岳部員2名は無惨にも十勝の崩雪の犠牲になった。

11時半渡辺君、井上君、ニセコより帰る。

12月30日(金)新聞によると2名の遭難者中1名の死体は発見されたが他の1名は未だ所在不明の由。渡辺・井上両君、今日は愈々帰省だということで張り切ってしまうて、6時半に起きた。ダークホース・ミッキーは1週間分の睡眠不足を取り返す積もりか、9時迄お寝み。9時50分発の急行にて井上・渡辺両君帰省。本急行は約1時間50分遅延した。朝は晴れていたが午後になって小雪降る。今日の夕食はスキヤキ。

12月31日(土)朝晴。三木に起こされ8時荒井山に行く。兼ねて約束のしてあった遠藤君が来て待っていた。堅いスロープの上に昨夜一しきり降ったので練習には絶好の日。御兩人共合宿の腕前を盛んに発揮する。11時半帰舎。午後吹雪。夜に至るも吹雪続き、寒気厳し。門松もつけたし餅も買ったし後はお正月を待つばかりだ。西村がカレンダーを持って来る。夕食は晦日そば。去年のより少々美味だ。こんなに寒くちゃ神社参拜もかなわん。 / 13年完 /